

第2回地下鉄7号線中間駅まちづくり方針有識者会議 議事録

○日時：令和4年8月8日（月）10:00～11:15

○場所：下落コミュニティセンター3階 多目的ルーム

○出席者

【委員】（敬称略）

座長 久保田 尚：埼玉大学大学院 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門教授

伊藤 香織：東京理科大学 理工学部 建築学科教授

上田 真弓：石黒技術士事務所 マーケティング・コンサルタント

大沢 昌玄：日本大学 理工学部 土木工学科教授

瀬田 史彦：東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻准教授

飛田 満：目白大学 社会学部長 社会学部地域社会学科教授

【オブザーバー】

内堀 隆太：国土交通省 関東地方整備局 建政部 計画管理課長

（欠席：国土交通省 関東地方整備局 建政部 都市整備課長）

（欠席：国土交通省 関東運輸局 鉄道部 計画課長）

松木 拓：国土交通省 関東運輸局 交通政策部 交通企画課長

○議題及び公開又は非公開の別

（議題）

（1）第1回会議の意見について

（2）「まちづくりのテーマ」と「まちづくりの方針」について

（3）「導入機能」について

（公開又は非公開の別）

公開

○傍聴者数

4名

○議事

1. 開会

2. 議事

◆議題(1)について

〈事務局より資料説明〉

資料 会議の進め方 P1

資料(1) 第1回会議の意見について P3

参考資料 目白大学の地域連携の取り組み

〈飛田委員〉

目白大学の地域連携の取り組みの説明に関して補足したい。さいたま市との包括連携協定の締結をはじめ、目白大学のホームページでも、研究・社会貢献に関する部分で他にも様々な取り組みについて掲載している。

一つは、事務局の説明にもあった委託事業としての公開講座であるが、2010年から始まっていて、毎年6月、7月にかけて集中的に看護学部と保健医療学部が開催している。それ以外にも、例

例えばさいたま市の国際マラソンが毎年開催されている時にボランティア参加をしていたり、健康ウォーキングの健康指導を行っている「目白大学スポーツサポーターズ研究会」がランナーケアブースを運営するなど、その様な方面で何年か実績がある。保健医療学部の理学療法学科については、テニスなど、特にスポーツ関係でジョイントできる部分がかなりある。

選挙啓発動画は、目白大学新宿キャンパスのメディア学科が、さいたま市の色々な題材を取り上げて動画を制作している。また、「やまぶきまつり」や「マルシェ」など、岩槻区のイベントについて手伝いや共同開催をしている。現在、コロナ禍で一時期中断になったが、岩槻キャンパスの竹林を伐採して活用した「流しそうめん」については、地元の方達と一緒に楽しんでいた。「地域社会で生きる」という授業では、岩槻の方を講師としてお招きして、お話をして頂いたとか、木目込人形の体験なども毎年行っているのだから、参考にご覧いただきたい。

〈上田委員〉

目白大学の学生は、地元から通学している方が多いのか、広域から通学している方が多いのか、または、一人暮らしの方が多くいるのか、主な学生の住まい先が分かれば教えていただきたい。

〈飛田委員〉

特にデータが無いので感覚的な話にはなるが、新宿キャンパスは、一都三県から集まっていると思われるが、岩槻キャンパスは、医療系なので地元埼玉の学生が多いと考えられる。

◆議題(2)、議題(3)について

〈事務局より資料説明〉

資料(2)「まちづくりのテーマ」と「まちづくりの方針」について P4~P8

資料(3)「導入機能」について P9~P11

〈久保田座長〉

次回から空間的な議論に入っていくので、今回は、その手前の「まちづくりの方針」、「テーマ・機能」、そのあたりについてある程度目処を立てたいと思う。では、事務局説明の内容について、ご意見アイデア等あればお願いします。

〈瀬田委員〉

私が随分前からこういったまちづくりに関して、この場所に限らず少し気になっていた事は、今日の資料のテーマ1にある、コロナ後のニューノーマルである。「V-RESAS」というコロナ後の人流等のデータがある。埼玉県内の同一市区町村の移動は読み取れないが、違う市町村から滞在人口が少し減っているという状況になっている。つまり、少し分析は必要であるが、人々の生活の動きというのが少し狭い範囲で行われているのではないかと推測される。このことから、今回のテーマ1に関係したまちづくりというの、身近な空間である程度生活が完結するような方向性が非常に望まれるという風に思っている。ただ、その新駅のまちだけで完結するというのは、さすがに大変なので、やはり鉄道延伸の岩槻、それから浦和美園それぞれ異なった機能があるので、そういった機能分担の上で、新駅周辺に住む人たちがどんな生活ができるかということをし少し具体化していった方がいいと思う。具体的には9ページに「導入機能」というのがあるが、全部必要なのか、あるいは、生活に必要な他の機能も踏まえた上で、浦和美園や岩槻でそれぞれできることも考えながら、新駅周辺で必要な整備を考える視点が必要だと思う。まちづくりとしては、さいたま市内、あるいはさいたま市東部地域の中である程度完結するような機能を考えていく必要があると思う。

〈事務局〉

中間駅のまちづくりは、前回45~65haとして説明させていただいたが、新しいまちということで、コンパクトなまちづくりが望まれている。よって、すべてをこの地区に盛り込むことは難し

く、美園、岩槻との役割分担は必要であると考え。美園については大きな商業施設と既に張付いている住宅、岩槻については歴史文化と観光があり、中間駅では何ができるかというところを導入機能で表現したいと考えている。

〈上田委員〉

事務局案のテーマがいくつかある中で、ニューノーマルの他にもウェルネス分野は、これからのまちづくりのテーマとして外せないと思う。具体的には、ウォーキングやランニングというところが外で活動する上で求められる機能になるが、走りたくなる、あるいは歩きたくなるようなまちづくりがよいと考える。都内ではスポーツ企業がランニングステーションだけ運営することが多いが、例えば道の駅とか、産直のような機能も併設して、地域のアピールができるような場としてランステやウェルネスが組み合わさったような施設があるといい。それに伴って、夜でもランニングやウォーキングができるという、安全面も配慮したまちづくりが求められるかと思う。

〈伊藤委員〉

3点あります。1点目は、9ページの導入機能において、たたくむ、くつろげるオープンスペース機能の作り方について。交通結節点であることから駅前ですぐロータリーを作るのが一般的だが、必ずしもロータリーが目前でなくてもよいと思う。ただオープンスペースがあれば良いというよりは、ウォークアブルの考え方からも、まずは駅前に人の空間があって、そこから他の交通に上手くつないでいくような作り方が大事だと思う。特に今後、スマート化していく時に情報で補完できるものはたくさんあるのではないかと。空間については今後ということであるが、駅前の空間の具体的な作り方みたいなものを今後出していけるといいと思う。

2点目は、瀬田委員からの意見にもあったが、どう機能分担して行くかということ。8ページに方針が2つあり、「さいたま市全域に波及する多面的な機能を共有します。」というのと、「連携と役割分担により、」ということであるが、多面的というのは、何でもあるという意味ではなく、ここにしかない個性があるということだと思うので、その辺を意識しながら作られるとよい。

3点目は、農とのふれあい機能に関しては、おそらくまちづくりの範囲の外と関係してくると思うので、そこに公共交通であるとか、新たなモビリティで繋いでいくような、まちづくりの範囲内だけではない交通のつながりについても言及できるとよいと思う。

また、8ページの「持続成長をめざします。」の「成長」というのは、どういう意味で書かれているかを教えて頂きたい。

〈事務局〉

1点目の駅前のロータリーの位置については、既に議論している部分ではあるが、駅から離し過ぎてしまうとバリアフリーの点で問題があると思う。例えば第1回の意見でいただいた、駅前ですぐとたたきむといった内容を含めた複合的な利用なども検討したい。2点目の多面的なということですけども、ご意見のとおり、すべてを詰め込むということではなく、特徴を出したものにしていきたいと考えている。3点目の地区外の農とのふれあい機能とモビリティの関係ですけども、第1回で久保田座長の意見にあった、周辺の交通空白地に対して、乗り合いタクシーなどによる駅との連携も考えられる。また、テーマ4の持続成長に関しては、第1回で大沢委員の意見にあった、区画整理になると同じ世代の方々が高齢化していく問題があると認識している。大沢委員にいただいていたご意見のように、例えば美園周辺の親世代が中間駅周辺に住んでいただいて、美園駅周辺にはまた新しい若い方に住んでいただくことで世代間の交流があるというような、そういった意味で持続的に成長していければ良いと思っている。

〈大沢委員〉

議論として、新たに引っ越してくる人達に対するイメージが強いが、区画整理ということ为前提とするのであれば、地権者の方々から土地を提供してもらうことで新たな街ができるので、今いる住民の人達にとってどんな機能が必要なのかについてもイメージすべき。それにより、こんな素敵

な街になるのだから協力しようということになる。今後、土地の流動化やまちのコンセプトを作る上で地権者がどのようにこのまちづくりに活躍、活動できるのかというのを入れておくことが必要だと思う。

また、規模が例えば60haとなると、そのうち20~25%は道路の整備になると思うので、約12haぐらいが道路になる。公園広場は5~10%位だから6haとなり、結局全体の3割位が公共空間になるので、その使い方は大変重要。今まではどちらかという、宅地側の機能方針をしっかりと書こうということであったが、ウォークブルなどを意識する中で、その3割の公共空間の土地利用をどのように位置付けるかということを経験から方針の中に位置付けをしっかりと書いておいた方がいいと思う。

〈久保田座長〉

確かに、既に住んでおられる方々、地権者の方々向けのアイデアが少し足りないのではないかと、ご指摘、これに対してどんなことができますか。

〈大沢委員〉

農地をお持ちの方も多くいると思うので、NPOなどを作る方法もあるが、その農地を提供する側として、自分達の農地を活用して農業振興をするなど、新しい住民達を楽しませるような地権者側の視点が入ると良いと思う。

〈久保田座長〉

ぜひ参考にさせていただきたいと思います。それから公共空間の内容については、次回空間の話になるので是非参考にさせていただければと思う。

〈飛田委員〉

私はSDGsの視点からまちづくりを考えているが、浦和美園、岩槻と中間駅周辺の3つの街の連携と役割分担ということに関して、あえて地域ブランドとか、地域アイデンティティということにこだわるとすれば、まず、さいたま市はSDGs未来都市、しかもSDGs先進度ランキングで第一位ということで非常に名誉ある街である。その中でスマートコミュニティとかハイパーエネラジステーションなど、スマートシティ構想を進めている浦和美園周辺というのは、SDGsで言えば7番のエネルギーや13番の気候変動に関わることだと考えられる。岩槻は、少し寂れてきた部分もあるが、教育と文化と歴史の街であるということなので、SDGsで言えば4番と考えられる。

この中間駅周辺は、どんな個性を持たせられるかということで考えると、保健医療、健康分野、あと、やはりさいたま市の忘れてはいけない地域資源はサッカーだと思う。浦和美園に埼玉スタジアムがあり、大宮公園にはNACK5スタジアムもあるわけで、Jリーグのクラブが二つもあるということでは、横浜市と大阪市と並ぶ。これはとても大きな資源だと思う。このことから、スポーツは落とせないテーマだと思っている。スポーツと保健、健康、医療、そういうものを一つにして、ウェルネスと言ってもいいしウェルフェアと言ってもいいし、ウェルビーイングと言っても良いが、3つの街の棲み分けの一つのアイデアとして持たせてみてはどうか。目白大学を取り上げていただいて、本当に嬉しいが、保健医療学部と看護学部の特化したキャンパスなので、理学療法学科とか作業療法学科は、スポーツにも絡んでいる部分なので、SDGsで言えばゴール3だと考える。全ての人に健康と福祉を。この部分を担うような街を目指したらどうか。

それから、9ページの導入機能で産学公民連携に複合施設とあるが、体育館とかプールとかジムみたいな大きな物も良いが、介護施設とか保育園、あるいはクリニック、そういうものを駅前に置くと、通勤の時に子供を預けたりできる。また、介護施設についても、地域交流スペースなどを特養の一階に設けると、地域との開かれた関係もできるので良い。規模感としては、大きなコミュニティセンターのようなものを作るより、これらのような規模の小さい複合施設を作る方が良いのでは。

あと、前回久保田座長からもMaaSについて言及されていたが、駅前が駐車場ばかりの広漠たる

風景になってしまうことを避けるために、先手を売ってパークアンドライドなどを作り高速充電施設を設置すると、電気自動車に誘導できると思う。

また、目白大学の岩槻キャンパスにいた時期があってつくづく思ったのは、安心して歩ける道があまり無い。岩槻へは歩いたり、自転車を利用して行ける距離だと思うが、バス通りは危ない。裏道もあるが夜危険である。歩行者や自転車が安心して、岩槻あるいは浦和美園方面に行けるような道路を作っていただけるとよいと思う。また、スポーツにも関係するが、自転車専用道路と併せ、駅前の公共駐輪場に何かお店のような複合的なものができると思い、アイデアの一つに加えてもらえるとうい。

〈久保田座長〉

ありがとうございます。アイデア満載でいろいろなご提案を頂きました。スポーツについては、先程上田委員からも夜安心して走れる道っていうご提案がありました。非常に近いご意見かと思えます。

〈事務局〉

介護や保育園、地域交流スペース、また、パークアンドライドなど地区外も含めた交通施設、それから第1回でご意見をいただいた「たたずむところ」など、駅前施設は何か必要なのかということころをゼロから検討していきたいと思う。

〈久保田座長〉

まちづくりのテーマの4ページを見ると、例えばテーマ1で、「職住遊」という場合に、どのような人々が新たに来るのか、または呼び込むのかと考えた時にいろいろな想定ができる。

例えば、高齢者の方々が、目白大学の医療、健康のノウハウと連携しながら、安心して住めるような、定年になったらここにきて住もうみたいな、そういう街ができるのかどうか。

あとは、若い子育て世代にも来て欲しいということになると、子育てのために必要な機能がもう少し前に出てきてもいいかもしれない。今有名なのは流山方式で、遠い郊外の保育園所にわざわざ預けに行かなくても、駅に預ける施設があって、通勤する人はそこまで子供を連れて、それからバスで子供たちを各保育所に届ける方式。だから通勤する人は通勤の途中に子供を駅までに連れていけばいいという、評判になっている事例ですが、そもそも新駅に保育施設があれば、バスで運ぶ必要もなくなるので、最初から検討しておくことが必要。

そういうものがうまくいくと、右下テーマ4のさいたま市全域やあるいは全国的に波及し、この新たな住まい方の提案みたいなものが、ここで発信できると「さいたま市方式」と言われるようなものが誕生する。

今思いついたものとして、高齢者向けと子育て世代の2つぐらいになるが、そのほか何か特徴のあるターゲットを見つけて、そこにテーマ1234を全てカバーできると良いのでは。

〈事務局〉

委員の皆様のご意見をひと通り拝見させていただいて、久保田座長からのターゲットをどの様に想定するかということは、今回の資料には足りない部分であった。伊藤委員からの成長の意味の問いに対しては、まだ明確に答えることができていないが、地区の将来像やまちづくりのテーマの大きな柱となると考えるので、第1回のデータなどを踏まえながらあらためて提示させていただきたい。

〈上田委員〉

ターゲット層ということであるが、第1回の資料で浦和美園に新しくお住まいになった方というのはどちらかというと、若いファミリー層の方が多いという結果があった。そこから考えると、「近居」という言葉にあたるが、おそらく周辺となる岩槻など、そういったところにお住まいの方が結婚されて、ご両親の近くで住むということを選択する方がいると考えられる。その様に考える

と、来られる方は、若いファミリー層やそれに伴ってご両親、また、ずっとお住まいになっている地元の方もいらっしゃるの、そういった方々が混在するような形になる。また、先程サッカーに関する意見もあったが、スポーツに関心のある方が来られることも想定できる。

〈瀬田委員〉

委員の皆様のご意見を伺いながら考えたが、健康医療分野を重視するのは非常に重要で、自分の健康医療に意識が向いている人が来ることを考えると、目白大学や自治体が行うイベントなどで健康まちづくりを頑張ってくれていることと併せて、まちづくりとして、安全に散歩ができるのか、スポーツが出来るのか、サッカーだったら近くにはグラウンドがあってちゃんと練習できるのか、その辺の基本的な条件が揃っていないと名前負けになってしまう。飛田委員からの意見にもあったバス通りは、歩行者にとってかなり危険だと思う。また、対象区域だけではなく、岩槻や浦和美園に行く道にその様な配慮がされているのか、バスや電車で移動できれば良いことではなく、健康という観点では、自転車で行く人も想定しないと意識が高い人にとって残念に感じられる。その辺については、仮説的に作戦を立てて、条件に合ったものの整備ができるか、整備できないものは何かで補えるのかというところをしっかりと考えるべきだと思う。

加えて、この健康医療分野は、世界的にも注目をされていて、例えば自分の日々の健康のデータを提供するなどできれば、産業のクラスターとしても非常に重要な拠点になる。健康医療分野の意識が高い人に対して、これらの条件が揃っていることを整理しておく必要があると思う。

〈大沢委員〉

テーマ1に「職住遊」とあるが、目白大学もあるので「学」も入れた方が良い。在宅になってちょっと空いた時間をうまく学び直しに使うとか、そういったことができるライフスタイルもあってよい。日本は学び直しが一番低い、これからは重要だと思っている。また、そういったものが展開できる場所として、家であるのか、駅の周りであるのか、目白大学なのかなど、議論しても良いのでは。

もう一つは、ターゲットの中に高校生をどのように入れるべきか考えている。個人的には、美園に自分の家があれば、新駅は秘密基地にしたいと思う。ちょっと緑もあって、そこに何か機能があり、そこに居ると本当は早く帰りたいけど親の顔を見たくないから、新駅の秘密基地に行って友達と食べて帰るなどというのもよいのでは。

実は一番怖いのは、今美園に住んでいる若い世代のお子さん達が、将来、職住の場所でどこを選ぶかということであるが、臨海部に行ってしまうと困る。一番良いのは、美園の親たちが、将来、中間駅の戸建てに移り住み、おじいちゃん、おばあちゃんの家となり、美園のマンションは、その子供たちが引き継ぐというような流れがあるとよい。

新駅の周りは、高校生達が秘密基地によってたたずむことが出来ると、このエリアに住み続けようとするので、やはり高校生の動向は重要かと考える。そこでやっぱり素敵な街になれば、そのままさいたまに住むし、あまり気持ちが残らなければ都内や臨海部に流れてしまうので、美園のマンション第二世代を上手にすくうような秘密基地にできればと思う。

〈久保田座長〉

秘密基地という新しい概念がありました。よろしくお願ひします。オブザーバーでお越しいただいている皆様にもアドバイスがいただけたらと思いますが、お願ひいたします。

〈関東運輸局 交通政策部 交通企画課長〉

先ほどの駅前ロータリーや交通結節の話については、新しいモビリティであると東京豊島区で走っているようなグリーンスローモビリティなどがイメージできるが、交通空白地帯まで伸ばすのであれば、それなりのものが必要になり、ある程度のバスがロータリーには入ることになる。バスロータリーが手いっぱいになっている事例をみると、中間駅の位置付けについて、役割分担や交通結節機能を持たせた上で、あらかじめ拡張性を持たせていただけるといいと思う。

〈久保田座長〉

駅前広場のいわゆる広場と交通結節機能とのバランスや役割分担を考慮することになる。やはり最終的には空間の上でどう収めていくかということになるので、さいたま市初の新しいものが提案できると大変良いと思う。各地で皆さん模索しているが、後からやろうとすれば相当無理がある。最初にゼロから設計ができると、非常に新しい提案ができる可能性があるのでよろしくお願ひします。

〈関東地方整備局 建政部 計画管理課長〉

新しく開かれた街では、引き続き住まわれる方がいる中で、新しく住まれる方の具体的なイメージを考え、また、その10年後、20年後に誰が住むまちなのかを考えつつ、近接する浦和美園や岩槻と人口の取り合いを続けるようなことにはならないか、その是非についても検討する必要がある。

鉄道沿線を広い範囲で見たときに、人口の増減はどうなるのか、どのような人達がどのように住んでいるのか、人口を維持拡大していけるのか、そういったところもまちづくりのテーマとして踏まえることと、まちびらきをする段階とその後持続的に成長、発展していく段階でどのように人口維持ができるのか、そういった観点も重要であるということをおたためて確認させて頂いた。

〈上田委員〉

先程、飛田委員から、自転車を活用したいという話があったが、私もさいたま市では自転車が重要な交通手段だと思っている。実家が南区の方にあるが、小さい頃から移動手段というと筆頭に挙がるのは自転車であった。バスの路線がかなり長いというところもあり、正確な時間通りに来ないことから、時間通りに行こうとすると必ず自転車に乗るという選択であった。私の実家では家族全員一人一台自転車を持っていたし、市内の多くの家庭が同じような状況だと思う。今は自転車に配慮した道路にもなっているが、新しいまちづくりをするには、必ず自転車を念頭に置いたものにしてないとニーズに合わないと考える。ここはぜひお願ひしたいところである。

〈事務局〉

ご指摘のとおり、さいたま市は、日本で一番か二番か位の自転車保有率の高さとなっており、市としても自転車レーンを積極的に推進していることから、当然ながら自転車には配慮して行く必要があると考えている。

〈久保田座長〉

私も、例えば周辺の街路整備を考える際にも、自転車の空間を予め取っておくというような配慮が必要であると思う。

〈飛田委員〉

私は社会学部的な観点からこのまちづくりを考えているので、やはり少子高齢化は根強いテーマだと思う。先ほどターゲットの話があったが、高齢者をターゲットにするか、子育て世代がターゲットにするかというのは、別に矛盾するものではないと思っている。特に高齢者の問題は、これからますます大変になってくると思うので、先程介護施設に関する希望を述べたが、介護施設と同時に保育所に関しても、子育て支援などの独自の枠組みがあって良い。一つの建物に介護施設と保育園を両方作り、そこを切り分けずに交流することがよいと考えている。つまりまちづくりとしてのターゲットも両立できると考えている。健康長寿という言葉としても結びつくが、スポーツや健康のまちだということを積極的に発信することによって、お年寄りにも子育て世代にも優しい街ができるのではないかとこの風に考えてみた。

〈瀬田委員〉

次回に空間的な案を検討するという事で、先ほどの関東地方整備局の発言で思い出したことが、リニア新幹線の間駅のまちづくりや新駅に何を整備するかを検討している中で、2027年の開業の時に入れるファシリティと、いつ出来るかはわからないが、自動運転が実現した時のファシリティがうまくアジャストできる、そういった未来にも対応できるような駅にしたいというアイデアが出た。基本的に将来どうなるかとか、いつ頃導入されるかを計画に含めるのは難しいので、確たる計画はできないが、その考えを前提にそういうファシリティを作り、自動運転が実現したら、そのファシリティがどういう形で違う使われ方をするかとかを考慮する。例えば、当初は普通の駐車場だったものが、自動運転が開始されると、自動運転車のプールになっていて、自動運転をオーダーしたら駅前のロータリーに到着するなど、そういうストーリー立てをしておく、仮にその通りにならなくても、ちょっと未来が描けるまちをイメージができるという感じがした。そんなアイデアも込めて考えて頂けると、本当に実現したかどうか別として、すごく未来志向になると思う。

〈事務局〉

モビリティがどのように成長するか目に見えないところもあるが、いろいろな発展に合わせたまちづくりの対応が必要になると思われる。先程の持続成長の部分も併せてご相談をさせていただきながら考えていきたいと思う。

〈久保田座長〉

今回も一部引用している道路ビジョン 2040 ですね。そこに書かれている絵が今から 20 年後を想定しているものなので、駅前広場のイメージなどは参考になるものだと思います。

〈久保田座長〉

ありがとうございました。本日も非常に多くのご意見やアイデアをいただきました。次回、空間に落とし込むという段階になりますので、宜しく願いいたします。

3. その他

特になし。

〈司会〉

次回の開催予定は、以下のとおり。

- 8月30日（火）15時～ 下落合コミュニティセンター 多目的ルーム

○問合せ先 さいたま市 都市戦略本部 未来都市推進部
電話番号 048-829-1871
FAX 048-829-1997